



曹洞宗 源溪山長安寺 寺報〔N0.291〕

“源溪山だより”

<https://chouanji.p-kit.com/> 令和8年5月①
住職 恩田仁志 gen-chouanji@aka2.gmob.jp



◆苦もプレゼント

思い通りに
なることが
幸せなら
誰も決して
幸せには
なれない



お釈迦様の教えの一つに“一切皆苦”^{いっさいかいく}という言葉があります。一言で言えば「すべて苦だ」ですが、「私たちが生きる世界は自分の思い通りにならない」ということ。生老病死もわかりやすく苦の実体を表したものでしょう。

思い通りに進まない毎日であることは、時を重ねて行くごとに理解が深まります。もちろん人生には楽しいこともうれしいこともたくさんあるのですが、それもまた煩惱と密接に存在することですので、苦と隣り合わせです。

永平寺を開かれた道元禅師が残された書に、「競四運一景」という言葉があります。“四運を^{しうん いっけい きそ}一景に競う”と読みます。今月の塔婆裏文にしました。

四運とは、季節でいうなら春夏秋冬、人生でいえば生老病死。一景とは“同じ一つの姿勢”という意味です。

「人生は四季のように移ろうもの。生も死も、健康

競
四
運
一
景

も病気も、愛も憎しみも、成功も失敗もあらゆることが起こりうる。しかし、どんなときものぼせ上がったリ、落ち込んだリ、逃げたりせずに同じ姿勢で受け止めよ。さらに一歩進めて、すべてを豊かな景色として味わいなさい」と道元禅師は教えています。

悲しみや苦しみに出会ったとき、それはお釈迦さまからの『アンテナを立てよ』という慈悲のプレゼントと思い、ありがたく受け取りましょう」と大本山総持寺西堂の青山俊董老師は話されます。

青山老師は尼僧堂々長を50年前から勤めてこられた尼僧で、「たくさんの病気をいただいて…」という法話を最近読ませていただきました。

難しいことですが、心に留め置きたいと思います。

◆えっ、このタイミング？

隠岐シャクナゲが十数株あります。まだ開花期で無いのに、ある朝、突然ひとつだけ開花したので写真に撮っておきました。

この隠岐シャクナゲは、すべて種から育てられ、当山にいただいたものです。それを育てた方が、ひとつだけ開花したその朝にご逝去されたと知らせがあったのはお昼頃でした。

開花が知らせであつたように感じ、撮影していた花の写真を印刷して霊前にお供えしました。



隠岐シャクナゲ

ツクシシャクナゲ
の変種で隠岐の島
後の固有種